

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00428

研究課題名(和文)ハーマン・メルヴィルを読み直す - 独自の読解法に立ち7つの特徴を注視する視点から -

研究課題名(英文)Rereading Herman Melville

研究代表者

福士 久夫 (Fukushi, Hisao)

中央大学・人文科学研究所・客員研究員

研究者番号：80096164

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：私は研究期間中に5編の論文を書いた。これらのうちの4編は部分的あるいは全面的に、メルヴィルが作中に書き込んだアイルランド、アイルランド人、あるいはアイルランド人移民と直接的あるいは間接的に関連する社会的あるいは歴史的な事象の剔抉や解明にかかわっている。それゆえ、私の研究プロジェクトの成果は、メルヴィルのアイリッシュ・マターズ(Irish matters)とでも呼びうるかもしれない、これまでのところ内外のメルヴィル研究において十全に研究あるいは探査されていない一つの大きな主題あるいは鉱脈に達したこと、ないしはそれを発見したことにあると言ってよい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ハーマン・メルヴィルの諸作品の中に埋め込まれている、アイルランド/アイルランド人/アイルランド人移民にかかわる、メルヴィルのIrish mattersとでも呼びうるかもしれない一つの大きな主題の発見、あるいはその剔抉と解明という研究成果は、当の主題がこれまでのところ内外のメルヴィル研究において十全に追究されてきたとは言いがたい主題であるだけに、小さくない学術的意義を有している。Irish mattersを論ずることは植民地主義、帝国主義、戦争、飢饉あるいは飢餓、移民問題などを論ずることでもある限りにおいて、本研究成果は、今日的な社会的意義も有していよう。

研究成果の概要(英文)：During the period of my research project I wrote five articles, all of which but one are partially or totally concerned with exposing or explicating the social or historical phenomena directly or indirectly connected with Ireland, the Irish, or Irish emigrants/immigrants which Melville entered into his works. The result of my research project can, therefore, be said to lie in having realized or discovered a large subject matter or vein in what may be called Melville's Irish matters, one that has not been duly or adequately investigated or explored in Melville studies at home and abroad to date. While the four articles mentioned above cover Mardi and Redburn only, I have ascertained through my research that certain descriptions associated with the above mentioned subject matter or vein can also be found in Moby-Dick, Pierre, The Confidence-Man, a poem called "The House-Top" included in The Battle-Pieces and Aspects of War, Billy-Budd, and so on.

研究分野：アメリカ19世紀文学

キーワード：メルヴィルの Irish matters

様式 C 19, F 19 1, Z 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は「歴史的、間テクスト的、自由な連想」に立つ読解法を標榜しているが、そうした読解法の着想を可能ならしめる学術的背景が本研究開始当初存在していたことを、私は本研究計画の申請書において、既読のメルヴィル文学自体についての先行諸研究や関連する先行諸研究、あるいは文学理論、批評理論関連の先行諸研究のうちで、特に啓発され影響を受けた 10 点の研究を列挙することによって示している。私が列挙した 10 点の研究のなかには、テリー・イーグルトン著、大橋洋一訳『新版 文学とは何か』(岩波書店、1997 年) (本書は、Terry Eagleton, *Literary Theory* [Second edition, Oxford: Blackwell Publishers, 1996]の日本語訳)が含まれている。本書は、「文学」なるものが一定不変の実体であるとする通念」に対する「疑問」、 「文学テクストには、単一の「正しい」意味など存在しないという考え方」、 「読者こそが意味を想像するのに積極的に加担するという考え方」などの重要な立言を含んでいるが、これらの立言をもって、私の標榜する「歴史的、間テクスト的、自由な連想」に立つ読解法の趣旨説明の一環としうる。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、内外のメルヴィル研究において従来十全に解明されてきたとは言い難い、それゆえに隠されたままであるかもしれない、アイロニーやミスディレクションや韜晦などの修辞上の特徴、アメリカ革命の理念への拘泥、庶民/人民/労働大衆の直面する貧困や疎外、さらには多人種、多民族、多文化の描写などの内容上の特徴など、メルヴィル文学の重要な諸特徴を、独自の読解法と視点に立って分析することによって精細に解明し、メルヴィル文学の新しい相貌を提示することにある。

(2) 本研究の結果をまとめて一書となし、世に問うこと。

### 3. 研究の方法

本研究の方法は、内外の先行諸研究からヒントを得て着想した独自の読解法、即ち、「歴史的、間テクスト的、自由な連想」に立つ読解法にある。これは、読者がメルヴィルのある 1 つのテクスト(作品)を読解する場合、メルヴィルが当該テクストの発表時点(ある特定の「歴史的」時点)までに読書や体験や見聞を通じて関知していた、あるいは関知していたと考えられる文学(彼自身の文学を含む)、歴史、政治、社会、宗教、イデオロギーなどのコンテキストの枠内にとどまる限りにおいて、読者はメルヴィルの当該テクストを精細に読みすすめるなかで、テクストの特定箇所に盛り込まれている諸記述や諸表現(これらの諸記述や諸表現は「間テクスト的」に成立している)に刺激されて、メルヴィルの当該テクストの他の箇所に現れる同種の諸記述や諸表現、並びにメルヴィルの当該テクスト以前に発表されたメルヴィル自身の(諸)テクストやメルヴィル以外の著者たちによる諸テクストに

見出される同種、同系列の諸記述や諸表現（これらの諸記述や諸表現は「間テクスト的」に成立している）を連想し、前者と後者を、それらの置かれている諸コンテクストを含めて比較検討し、かくして両者の間に発見することになるかもしれない度合の異なる同質性、明確なあるいは微妙なズレ、ただならぬ齟齬などを手がかりにして、メルヴィルの当該テキストを「自由」に、つまり主体的に、読み解く読解法であり、メルヴィルの修辭的特徴、すなわち、アイロニー、サタイア、韜晦、ミスディレクションなどの読み取りにくい看破に際して特別に奏功する読解法であると私は考えている。

#### 4. 研究成果

私の研究プロジェクトの成果は、メルヴィルが作中に書き込んだ、あるいは埋め込んだ、メルヴィルの Irish matters とでも呼びうるかもしれない、これまでのところ内外のメルヴィル研究において十全に追究されていない1つの大きな主題あるいは鉱脈に逢着したこと、ないしはそれを発見したことにあると言ってよい。この主題ないし鉱脈を「1つの大きな主題あるいは鉱脈」と私が呼ぶのは、私が研究期間中に書いた諸論文は、基本的には、メルヴィルの諸作品のうち、『マーディ』（1849）と『レッドバーン』（1849）しか扱っていないとはいえ、期間中の研究を通じて、上述のような主題ないし鉱脈に関連する一定の記述が『白鯨』、『ピエール』、『詐欺師』、『戦闘詩篇と戦争の諸局面』所収の「屋根」と題された詩篇、遺作として残された『ビリー・バッド』などにおいても見出し得ることを確認済みだからである。

私の研究プロジェクトの成果としての上述のような主題の発見は、当の主題が内外のメルヴィル研究において、私の知る限り、これまでのところ十全に追究されていない主題であるだけに、小さくない学術的意義を有するものと私は考えている。それゆえ私は、この主題の追究が学術的意義を有するものであることを証しするために、今後もメルヴィルにおけるこの主題の追究を続行する所存である。具体的に言うならば、1つには、私が中央大学人文科学研究所の『人文研紀要』にすでにその（Ⅰ）を発表し、その（Ⅱ）を同紀要に寄稿した（（Ⅱ）は2023年6月10日現在まだ原稿状態）ものの、未完結である論文、すなわち「メルヴィルの『レッドバーン』と「野蛮なアイルランド人」という句をめぐる」を、（Ⅲ）、（Ⅳ）、（Ⅴ）と書き継ぎ完成させたいと考えていている。本論文は基本的に、メルヴィルの『レッドバーン』に、引用符付きで、かつ一部イタリック体表示で、一度だけ出てくる句（"wild Irish"）である「野蛮なアイルランド人」という句　この句はアイルランド史関連の書物を読むと時々出くわすことのある句でもある（引用符つきで現れることも、引用符なしで現れることもあるが、巻末のインデックスに掲載されていることはめったにない）の起源や来歴を尋ねるといって形でメルヴィルの Irish matters の深奥を探る試みであり、本論文にはメルヴィルプロパーの研究書を読むだけでは決して知りえない情報が盛り込まれている。私は本研究プロジェクトを通じて、一般に Irish matters を論ずることは、植民地主義、帝国主義、戦争、征服、反乱、貧困、飢饉・飢餓問題、移民問題などを論ずること

もあるという感を強くしたが、そうであるかぎりにおいて、またこれらの問題が21世紀初頭の世界にあってもなお問題であり続けているかぎりにおいて、本主題の追究は社会的意義も有することになるはずである。私は論及中の論文の(Ⅰ)と(Ⅱ)において、これらの問題のいくつかに論及したが、来る(Ⅲ)～(Ⅴ)においては、これらの問題のいくつかをやや踏み込んで論ずることになるはずである。2つには、私が客員研究員として参加している中央大学人文科学研究所の「現代アメリカの言語と文化」チームが刊行を予定している(時期は未定)叢書において、メルヴィルの諸作品に見出される当の主題関連の重要な記述があらわれる箇所をすべて検討してみたいものと考えている。3つには、所属している学会(新英米文学会)の研究プロジェクト(仮称「アメリカ文学と大衆」)が刊行を予定している(時期は未定)アメリカ文学論集においては、メルヴィルが諸作品の中で直接間接的に描き出しているアイルランド人移民(大衆)像を剔抉してみたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 福士久夫	4. 巻 第99号
2. 論文標題 生垣、浮浪者、メルヴィルの『レッドバーン』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研紀要（中央大学人文科学研究所）	6. 最初と最後の頁 109頁と 133頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福士久夫	4. 巻 第53号（ ）
2. 論文標題 アイルランド／アイルランド人／アイルランド人移民とハーマン・メルヴィル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学経済研究所年報（中央大学経済研究所）	6. 最初と最後の頁 597頁と629頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福士久夫	4. 巻 第96号
2. 論文標題 視点、アイロニー、コンテクスト、歴史、ジャクソン メルヴィルの『レッドバーンを再読する』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文研紀要（中央大学人文科学研究所）	6. 最初と最後の頁 371頁と403頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福士久夫	4. 巻 第102号
2. 論文標題 メルヴィルの『レッドバーン』と「野蛮なアイルランド人」という句をめぐって(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文研紀要（中央大学人文科学研究所）	6. 最初と最後の頁 1頁と32頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福士久夫	4. 巻
2. 論文標題 メルヴィルの『レッドバーン』と「野蛮なアイルランド人」という句をめぐって(11)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文研紀要(中央大学人文科学研究所)	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福士久夫	4. 巻 第136号
2. 論文標題 書評『レトリックの哲学』を読んで: アイヴァー・A・リチャーズ著、村山淳彦訳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界文学(世界文学会)	6. 最初と最後の頁 103頁と105頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 福士久夫
2. 発表標題 『The Invention of the White Race』に刺撃されて
3. 学会等名 新英米文学会第50回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福士久夫
2. 発表標題 コンラッドの『闇の奥』はどのように評価されている(きた)か チュニア・アチュベから、丹治愛、ハナ・アーレント、高橋哲哉、藤永茂まで
3. 学会等名 新英米文学会理論研究例会:11月例会「レイシズム」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福土久夫
2. 発表標題 英米文学にあらわれる垣根関連のイメージ（ヘッジ、フェンス、パール、ウォールなど）をどう読み解くか 文献紹介
3. 学会等名 中央大学英米文学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------